

旧岡谷上水道集水溝 国登録有形文化財

～人々の生活を支えた水道施設～

◆岡谷北西の製糸用水、飲料水を支えた

大正時代、製糸業が最盛期を迎え工業用水や飲料水の需要が増え、上下水道建設の要望が高まった。そこで昭和2年塩嶺山麓の滝ノ沢に集水溝、導入管、受水槽、分水槽が造られた。翌3年に給水が開始された。

◆水を導く特異な構造

正面は切石布積、側壁及び内部アーチ天井はコンクリート造りで、上部には換気口がある。山側壁面の石積みのすき間から湧水を取り込み、動力を使わずに山の傾斜を利用した。

◆思い出深い水道施設

一日1,100^mの湧き水を取水した水道施設。中央道長野線岡谷トンネルの掘削により水が枯渇して、昭和63年に使用停止となったが、現在は宗教法人十五社によって大切に保存されている。



集水溝の外観



集水溝の内部